

2年次を終えて

看護学科第44期生 吉原 希美

2年次が終わり、いよいよ3年次を迎えます。この一年間を振り返ると、看護の知識や視野が広がったことを実感しています。1年次に学んだ基礎看護を基盤とし、看護師として求められる多様な役割について理解を深めることができた一年でした。

特に印象に残っているのは、国際看護や災害看護についての学びです。国際看護では、異なる文化や医療の中で求められる看護の在り方について考え、グローバルな視点を持つことの重要性を学びました。世界中で活躍する看護師の姿を知り、自分自身もより広い視野を持って看護を考える必要性を感じました。



また、災害看護では災害時に迅速かつ的確に対応するための知識や技術を学びました。消防署指導のもと行われた災害訓練では、トリアージを実践し、災害時の体験をしました。トリアージでは、傷病者の状態を迅速に判断し、治療の優先順位を決定する重要性を学び、短時間で適切な判断を下すことの難しさを感じました。

そして3年次は、いよいよ臨地実習が始まります。これまでに学んできた知識を実際の医療現場で活かし、患者さんと直接関わらせてもらうことで看護師としての視点や技術を高める大切な機会です。不安や緊張もありますが、一つひとつの経験を成長につなげられるように基本的な技術や知識をしっかりと復習し、準備を進めていきたいと思えます。

3年次は、看護師としての自分の姿をより具体的に描き、実践力を養う重要な一年となります。困難に直面することもあるかもしれませんが、クラスメイトと支え合いながら一歩ずつ成長し、患者さんに信頼される看護師を目指し努力していきたいです。